

IIRIS の翻訳文書

1. IIRIS - 視覚障害者のためのサービスと活動センター
 - (1) 国家レベルでの首都圏における視覚障害者のためのサービスは現在 IIRIS「視覚障害者のためのサービスと活動センター」に集約されています。
 - (2) IIRIS は全盲の、もしくは部分障害の、または視聴覚障害の訪問者のためにデザインされています。その建物は、知覚障害者や身体障害者、その他の障害者がアクセスしやすくなっています。IIRIS はトレーニングやコミュニケーション手段が整ったセンターとして機能しており、この多目的施設は 300 人もの訪問者を収容できる。
2. 一つの屋根に総てのサービスを
 - (1) 視覚障害者へのサービスを長年にわたり困難にしてきた諸問題、すなわち不適切な施設の問題に対する解決がこの IIRIS なのです。IIRIS における共通施設は効果的に、様々な用途で使用されています。日中はトレーニングやリハビリ、雇用施設として使用されます。夕方や週末は視覚障害者や趣味のサークルに自由に解放されています。
 - (2) 将来的には、より多くの人々が視覚障害のサービスを必要とするでしょう。人口が高齢化すれば、視覚が衰える者、または障害を抱える者も増えてきます。以前はほとんど見られなかったこのようなサービスも今は一つの屋根の下です。
3. IIRIS なら様々な成功体験が得られます。
 - (1) 大講義室や集会所として
 - 1 大講義室はセミナーや講義、そしてコンサートですら調整が可能です。大講義室は 100 名の椅子を用意し、さらに車椅子用のスペース、および前列に追加椅子のスペースを確保しています。
 - 2 大講義室はトップレベルの技術的な装置、すなわちプロジェクターやビデオカメラ、またインターネット接続がなされたパソコンも備え付けられています。大講義室は音響効果に気を遣い、難聴を防ぐために誘導磁界方式を採用しています。全面に低音のスピーカーを設置しているため視聴覚障害者はもっとも低い音でも感知することができます。大講義室は三つの言語への翻訳システムを備えています。
 - 3 集会所は、オーバーヘッドやプロジェクター、そしてフラップボードを備え、8 名、16 名、そして 40 名を収容できます。

- 4 施設の予約においてはこの技術設備費用も含まれておりますので、予約の際にはどの装置をお使いになるか事前連絡をお願いいたします。

(2) レストラン

- 1 IIRIS のレストランは様々な範囲のサービスを行っており、珈琲から三つのビジネスランチまでご用意いたします。メニューは個人の好みに合わせて、またはダイエットメニューに合わせてプランを立てることができます。
- 2 食事は太陽の光がよく入り、明るいダイニングルーム (120 名収容) や、ミーティングルームへの持ち込みが可能です。社交パーティにおいては、レストラン空間はホールにまで延長させ、広いメインの廊下や木製の扉そしてガラスの壁面へと接続することができます。

以下、IIRIS へのアクセス方法やその他団体の紹介。

以上